

総括評価表

重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の評価・意見	次年度への課題と今後の改善方策
<p>基本的生活習慣の確立及び望ましい校風の樹立</p>	<p>①挨拶を励行する。 ②出席率を向上させる。 ③「生活習慣改善プロジェクト（元気なあわっ子！応援事業）」の取組を充実させる。 ④個人面談週間を年間指導計画に位置付ける。 ⑤地域とともにある望ましい学校づくりを推進する。</p>	<p>評価指標 ①日常生活における挨拶を励行することで基本的生活習慣を確立する。 ②さわやかで活力あふれる富東生を目指し、出席率を80%以上とする。 ③生活習慣改善目標を自分で設定し、自己評価において「十分できた、できた」と回答する率を60%以上とする。 ④個人面談により、生徒とのコミュニケーション及び生活習慣、学習状況等の把握に努める。 ⑤ホームページの年間70回以上の更新に努め、学校への理解の推進を図る。</p> <p>活動計画 ①毎日の昇降口指導を実施する。 ②生徒への声掛けを積極的に行う。 ③生活習慣改善プロジェクトを計画案に沿って実施する。 ④各学期当初に、個人面談週間を設定し実施する。 ⑤行事があるごとに、タイムリーな情報を分かりやすく提供する。</p>	<p>評価指標の達成度 ①登下校時や授業の際、教員より先に生徒から主体的に挨拶するケースも増えてきた。 ②2学期末現在の出席率は87.6%であり、各学年とも80%を超えることができた。 ③自己評価において「十分できた、できた」との回答は57.9%であり、年度当初の目標には到達しなかった。 ④各学期当初の個人面談によって、生徒の生活習慣や学習状況等を把握し、適切な指導を行った。 ⑤12月末現在、ホームページの更新は70回を超え、学校への理解の促進に努めた。</p> <p>活動計画の実施状況 ①毎日、複数の教員が笑顔で校門及び昇降口指導を行った。 ②日頃から生徒への声掛けを誠実に行った。 ③「ほけんだより」の発行、健康安全教室の開催等、当初の計画どおり実施した。 ④年間3回の個人面談を実施した。 ⑤行事終了後に速やかに情報を提供することができた。</p>	<p>総合評価（評定） B</p> <p>（所見） 基本的生活習慣の確立及び望ましい校風の樹立に向け、挨拶や出席率、ホームページの更新回数等、評価指標を上回ることができた。次年度は、生活習慣改善目標における「十分できた、できた」と自を向上させたい。</p>	<p>・高い出席率は教員と生徒との関係性が良好であることが要因と思われる。</p> <p>・3回の個人面談も生徒と1対1で対話できる良い機会であると思われる。</p> <p>・定時制の生徒全員が「さわやかで活力あふれる富東生」を目指し、引き続き挨拶励行を評価指標とし、基本的生活習慣を確立する。</p> <p>・次年度の出席率は各学年とも90%以上となるよう、家庭や関係機関との一層の連携を図りながら指導していく。</p>
<p>職業と学業の両立を図るたくましく豊かな人間性の育成</p>	<p>①たくましい精神力の育成に向け、健康相談・教育相談を充実させる。 ②関係諸機関との連携により、個々の生徒に応じた就労支援を行う。 ③高校生活の大切さを伝えるとともに、人間性豊かな生徒を育成する。</p>	<p>評価指標 ①課題の把握により、教職員の共通理解を図り、支援方針を立て解決を目指す。 ②職業と学業の両立を図る力を育成し、就労生徒70%以上を目指す。 ③進路実現に向けての講演や、工場見学や職業体験等の体験活動を実施し、積極的に高校生活を送ろうとする姿勢を高める。</p> <p>活動計画 ①毎週木曜日の「健康相談の日」を充実させ、スクールカウンセラーと協同して支援にあたる。 ②関係諸機関の連携、就労に関する情報の収集、個々の生徒に応じた就労相談、職場訪問・開拓等を推進する。 ③進路指導に関する行事や講演、体験活動を充実させ、高校生活の重要性を意識させる。</p>	<p>評価指標の達成度 ①12月末現在の生徒の相談件数は27件であり、教職員間で共通理解を図り、支援している。 ②就労率は70.3%であり、多くの生徒たちが職業と学業の両立を目指して、日々努力を続けている。 ③進路講演や工場見学等を通じて、生徒それぞれが自己の進路実現に向けて、前向きに取り組む姿勢が見られるようになった。</p> <p>活動計画の実施状況 ①スクールカウンセラーと連携を図りつつ、計画どおり実施した。 ②ハローワーク等とも連携し、個々の生徒の進路希望に応じて、教員が企業訪問をしたり、生徒の企業見学を引率したりして就労支援に努めた。 ③当初の計画どおり、進路指導に関するホームルーム活動や行事を活用して、進路講演や工場見学等を実施した。</p>	<p>総合評価（評定） B</p> <p>（所見） 定時制の目指す生徒像は職業と学業の両立であり、就労率は昨年度を上回る7割に達した。次年度は8割を目標としたい。また、様々な体験活動を計画し豊かな人間性を涵養していきたい。</p>	<p>・一定の就労率を達成できると期待される。</p> <p>・未就労の生徒をいかにして就労させるか。大学卒業後、就労先での責任を担い、進路指導に生徒に導いていく。</p> <p>・単発の行事に終始することなく、将来を見越した継続性のあるものとなるよう、綿密に計画を進めていく。</p>
<p>基礎学力の向上と進路指導の徹底</p>	<p>①基礎学力の源となる読書活動を推進する。 ②継続的に漢字スキル学習に取り組む。 ③各種資格、検定試験にチャレンジさせる。 ④基礎学力向上を推進する。 ⑤アフターサポートを徹底する。</p>	<p>評価指標 ①授業等で年間25回以上学校図書館を利用する。 ②各自に応じたレベル別の課題に取り組み、30%以上の生徒が上のレベルに上がることを目指す。 ③各種資格、検定の受検者を前年度の15名以上とする。 ④年度末の欠点取得者を0名にする。 ⑤欠課補講及び欠点補講を年間各2回実施する。</p> <p>活動計画 ①生徒に学校図書館を利用させ、読書を促し、読む力の育成を図る。 ②個々に応じた指導を心掛け、毎日の漢字スキル学習に取り組む。 ③漢字スキル学習の活用や、各教科担当</p>	<p>評価指標の達成度 ①12月末までの学校図書館利用数は36回であり、生徒の読書活動を推進できた。 ②12月末現在、目標を上回る43%の生徒が上のレベルに到達することができた。 ③のべ19名の生徒が各種検定を受検し、スキルアップに向けて努力を続けた。 ④2学期末における欠点取得者が4名おり、年度末には0名になるよう指導していく。 ⑤欠課補講及び欠点補講を各2回実施し、基礎学力の定着に努めた。</p> <p>活動計画の実施状況 ①国語や総合的な学習の時間等を利用して、読書活動を推進し、読む力の育成を図った。 ②生徒一人一人に応じた声掛けや採点時のメッセージ等、継続的に丁寧な指導を行った。 ③毎日の漢字スキル学習に加え、ビジネス文</p>	<p>総合評価（評定） B</p> <p>（所見） 本校定時制の取組である漢字スキル学習や学校図書館利用回数、各種検定受検者は昨年以上の成果を上げたことができた。2学期末には欠点取得者が4名であったが、年度</p>	<p>・学力の向上については、個々のレベルも概ね言えないが、資格や検定受検者が一定数いることは評価できる。</p> <p>・明確な目標を持つことで、努力と資質の向上を目指しやすと思われる。</p> <p>・本校定時制が毎日実施している漢字スキルに意欲が低い生徒に、真剣に取り組ませる。今後の課題である様々な解決法を模索し、ボトムアップを図る。</p> <p>・各種資格、検定の受検を奨励し、受検者数の増加に向</p>

		<p>教員と協力し受検奨励に努める。</p> <p>④各教科において定期考査前後の復習を徹底し、基礎基本の定着を図る。</p> <p>⑤全教職員で取り組み、基礎学力の定着を図る。</p>	<p>書検定等の受検を奨励し、対策を指導した。</p> <p>④各教科ごとに要点をまとめたプリントを用いて復習し、基礎学力の定着を図った。</p> <p>⑤全教職員で連携して取り組み、生徒の基礎学力の定着に努めた。</p>	<p>には0名になるよう、きめ細やかな指導を続けていく。</p>		<p>け尽力する。</p>
家庭・地域社会との連携による生徒指導の充実強化と安全指導の徹底	<p>①家庭・関係機関との連携を図る。</p> <p>②災害時の対応力を養う。</p> <p>③安全教育の啓発を励行する。</p> <p>④生徒一人一人に対する生徒指導の充実強化に努める。</p>	<p>評価指標</p> <p>①生徒の健全育成のため、家庭・学校・関係機関が連携を深める。</p> <p>②防災・避難訓練を年間3回行う。</p> <p>③安全教育の授業を年間5回以上実施する。</p> <p>④生徒の情報共有職員会議（毎日2回）における情報共有数を、年間のべ1800名以上にする。</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>①家庭・学校・関係機関が連携を深め、充実した生徒指導を実施した。</p> <p>②防災・避難訓練とAED講習を実施した。</p> <p>③外部講師による安全教育を年間3回実施した。</p> <p>④毎日2回の打合せにより、12月末現在の生徒の情報共有数はのべ459名であり、教職員間で共通理解を図った。</p>	<p>総合評価 (評定)</p> <p>B</p> <p>-----</p> <p>(所見) 学校防災計画を踏まえ、夜間に対応した実施計画を作成し、実践的な防災教育を実施することで、防災・減災に関する意識のさらなる向上を図っていく。情報共有数は減少したが、今後も一人一人に対応した指導を心掛けていく。</p>	<p>・講習会や安全教育の実施は、これからの時代には必須である。</p> <p>・情報共有については、数値も大切だが、重要度や優先順位の精査も必要になってくると思われる。</p>	<p>・本年度、評価指標に達しなかった防災・避難訓練を各学期に1回は実施できるように、年度当初に詳細に計画を立てる必要がある。</p> <p>・生徒指導の充実に向け、全日制との共通認識はもちろんのこと、警察や阿南市青少年健全育成センター等との連携を一層図る。</p>
		<p>活動計画</p> <p>①生徒の犯罪を未然に防止するため、祭礼時・各学期の街頭補導、PTA研修・家庭訪問などを実施し、生徒をサポートする。</p> <p>②防災・避難訓練を通じて、災害に対する事前準備と、災害発生時の正しい対応力を身に付けさせる。</p> <p>③年間計画に沿った安全教育を実施し、自主的な行動を身に付けさせる。</p> <p>④生徒の情報共有職員会議の実施及び有効活用を図る。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>①集会等を通じて規範意識を徐々に定着させた。関係機関との街頭指導・家庭訪問を実施することで、生徒一人一人のサポートに努めた。</p> <p>②全教職員で協働体制を構築し、防災・避難訓練を1回、AED講習を1回実施し、防災への意識向上を図った。</p> <p>③年間計画のとおりに安全教育を実施し、生徒に自主的な行動を身に付けさせた。</p> <p>④生徒の情報共有職員間で共有し、話し合いを重ね、きめ細かな指導に結び付けた。</p>			
教育活動の全領域における人権教育の徹底	<p>①いじめ等の問題行動の未然防止に努める。</p> <p>②人権講演会を充実させる。</p> <p>③自主活動への参加を促す。</p> <p>④職員研修を充実させる。</p> <p>⑤「人権新聞」を制作する。</p>	<p>評価指標</p> <p>①いじめ・悩みアンケートを年間3回、基本的な生活習慣調査を年間1回、それぞれ実施する。</p> <p>②人権講演会を年間2回実施する。</p> <p>③身元調査お断りワッペン運動に参加する。</p> <p>④人権講座等の研修会に全教職員が1回以上参加する。</p> <p>⑤人権委員を中心に生徒からの感想をまとめ、年間3回発行する。</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>①当初の計画どおり各学期にいじめ・悩みアンケートを、1学期に基本的な生活習慣調査を実施した。</p> <p>②外部講師による人権講演会を2回実施した。</p> <p>③学校主催と阿南市人権教育協議会主催の二つのワッペン運動に参加することができた。</p> <p>④計画どおり全教職員が人権講座等の研修会に1回以上参加した。</p> <p>⑤生徒からの感想をまとめ、人権新聞として年間3回発行した。</p>	<p>総合評価 (評定)</p> <p>B</p> <p>-----</p> <p>(所見) 生徒にとって身近なテーマに基づいた人権講演会は、講師の分かりやすい説明もあり、大変充実した行事となった。また、全教職員が様々な人権教育に関する研修会に参加し、人権意識の高揚を図ることができた。</p>	<p>・人権教育は、生徒により意識の違いはあるが、話し合いや事後の感想等をまとめることにより、全生徒が人権意識を高く持つよう、粘り強く浸透させていくことが必要である。</p>	<p>・いじめ・悩みアンケート結果から、小さな芽も見逃さないきめ細やかな対応を心掛けるよう、全教職員が取り組む体制を構築する。</p> <p>・学校、家庭、地域が更に連携を深め、身元調査お断りワッペン運動を通じて、知識理解だけにとどまらず、社会で実践できる人材を育成していく。</p>
		<p>活動計画</p> <p>①各種アンケートを実施し、生徒の状況把握に努める。</p> <p>②生徒の身近な内容を取り上げる。</p> <p>③生徒の実態に応じて呼びかける。</p> <p>④研修受講後も意見交換をきめ細かにを行い、「人権の視点」を日常的に持つことを相互確認する。</p> <p>⑤人権HRや人権講演会の感想等をまとめる。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>①把握した生徒の状況については教職員間で共通理解を図り、解決に向けて取り組んだ。</p> <p>②「いじめ、仲間づくり」「バリアフリー」をテーマに人権講演会を実施した。</p> <p>③学校主催は参加しやすい平日の行事とした。</p> <p>④研修受講後のアンケートまとめにより、教職員間で話し合い、情報の共有を図った。</p> <p>⑤人権HR、人権講演会後の感想等のアンケートを基に、人権新聞としてまとめた。</p>			
個性と自主性の開発伸張による有為な社会人の育成	<p>①地域の清掃活動への参加を促す。</p> <p>②計画的な総合的な学習の時間の実施に努め、個性と自主性の開発伸張を図る。</p> <p>③個性を發揮し、定通連の美術作品展や球技大会に参加する。</p> <p>④活躍の場を提供できる教育活動を展開し、校外行事への参加率</p>	<p>評価指標</p> <p>①清掃ボランティア活動を年間2回実施する。</p> <p>②総合的な学習の時間の適切な学習評価を実施するため、年間学習計画を作成する。</p> <p>③美術作品展の手芸部門で5作品以上、全部門で計40作品以上を出展する。球技大会の入賞者数を2名以上とする。</p> <p>④様々な校外行事への参加率を70%以上とする。</p> <p>⑤日々の指導を通じて、挨拶、話し方、</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>①11月に清掃ボランティア活動を実施し、地域の清掃活動に取り組んだ。</p> <p>②年度当初に、総合的な学習の時間の年間指導計画を作成し、同時間を充実させ、県高文祭参加等につなげた。</p> <p>③手芸部門の作品はなく、全部門で34作品を出展した。球技大会では女子4名が入賞し、男子1名が全国大会に出場を果たした。</p> <p>④遠足や自然体験活動、球技大会等への参加率は約60%であった。</p> <p>⑤生徒一人一人への声掛けやホームルームで</p>	<p>総合評価 (評定)</p> <p>B</p> <p>-----</p> <p>(所見) 特筆すべきは定通連主催の球技大会において、男子生徒が全国大会出場を果たしたことである。</p>	<p>・スポーツや文化活動、ボランティア活動等の多種多様な活動の実施により、生徒一人ひとりが今後に向けて自信を得ることができたと思われる。</p>	<p>・次年度は年度当初の年間行事計画に清掃ボランティア活動を組み込み、各学期に1回以上実施し、地域の活性化に貢献したい。</p> <p>・様々な校外行事への参加率を上げるため、一人ひとり</p>

	<p>を高める。 ⑤将来、社会人として必要とされるマナーを身に付けさせる。</p>	<p>聴き方、周囲への配慮等、社会人としてのマナーを養成する。</p> <p>活動計画</p> <p>①地域の清掃活動へ参加させ、社会参加への主体性と奉仕の精神を養う。 ②生徒の個性と自主性の開発伸張を図るため、それぞれの興味・関心、能力、適正等を考慮する。 ③家庭科教員にも協力を仰ぎ、夏休み前から制作を促す。球技大会の練習時間を確保する。 ④生徒の成長に資する教育環境を整備する。 ⑤日々の声掛けとともに、マナー講習等を実施する。</p>	<p>の指導を通じて、少しずつではあるが各自が他者への接し方を身に付けてきた。</p> <p>活動計画の実施状況</p> <p>①校舎周辺や地域の清掃活動に取り組み、社会参加への主体性と奉仕の精神を養った。 ②生徒の興味・関心等に基づいて、各種検定の受検や県高文祭等への作品出展などを促し実現させた。 ③1学期から家庭科教員に協力を得ることができたが、作品展には出展できなかった。球技大会前に練習時間を4日間確保できた。 ④生徒にとって意義のある行動計画を立て、望ましい教育環境を整備することができた。 ⑤1学期にマナー講習を実施し、実習を通じて挨拶の仕方や面接での態度等を学んだ。</p>	<p>本人にとって貴重な体験となり、他の生徒の励みにもなった。定時制の目標である有為な社会人の育成に向け、様々な行事への参加を促していきたい。また、本年度好評であったマナー講習を継続し、必要なマナーを身に付けさせていく。</p>		<p>への声掛けを積極的に行っていきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・美術作品展ではより多くの作品出展や入賞を目指したい。
<p>教職員の資質向上と教育条件の整備充実</p>	<p>①自己の教育課題の解決のために、様々な研修を受講し、各自のスキルや意欲の向上を図る。</p>	<p>評価指標</p> <p>①総合教育センターの希望研修等を年1回以上受講し、専門性を高める。</p> <p>活動計画</p> <p>①全教職員が意欲的に様々な研修を受講し、実践力を高める。</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>①夏季休業中を中心に、全教職員が希望研修等に参加し、資質や能力の向上を図った。</p> <p>活動計画の実施状況</p> <p>①それぞれのスキルの向上を目指し、全教職員が意欲的に研修を受講し実践力を高めた。</p>	<p>総合評価 (評定)</p> <p>B</p> <hr/> <p>(所見) 他の教員と切磋琢磨しながら常に向上心を忘れず、学び続けていく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・研修で学んだことを「生徒のために」生かしてほしいと切に願う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各教職員がそれぞれの研修で得たスキルを現場で生かしたい。また、他の教職員にも得たものを伝達し、お互いが切磋琢磨しながら学び続ける職場づくりをする。